

研究課題：がん医療の均てん化に資するがん診療連携拠点病院の機能強化に関する研究

課題番号：H19-がん臨床一般-003

研究代表者：国立がんセンターがん対策情報センター がん対策情報センター長
加藤抱一

1. 本年度の研究成果

昨年度の本研究班からの提案などにより改訂された今年度の拠点病院の推薦書・現況報告書の様式をさらに各分野別に検討した。来年度の様式に対する要望として以下のとおりまとめた。

【診断】

- ・ 適切な集学的治療の提供には適切な診断が不可欠なため、集学的治療の提供体制、キャンサーボード、研修の実施体制に「画像診断」「病理診断」を加える
- ・ 「画像診断」は「放射線診断」「内視鏡診断」に分ける
- ・ 「病理診断科」が標榜可能となったため、「診療機能・病理」に病理専門医による病理診断結果の説明体制を追加。また、歯科医が専門医となる「口腔病理専門医」を追加
- ・ 「診療機器の保有状況」に、内視鏡システムと内視鏡自動洗浄器の保有台数を追加

【治療】

- ・ 診療件数として「Kコード」の手術のみが取り上げられているが、体腔鏡の件数把握のためには「Dコード（検査）」と「Jコード（処置）」の件数カウントも必要では？
- ・ 集学的治療、病病・病診連携では「クリティカルパス」が、化学療法では「レジメン」が使われているが類似の概念であるため、定義・方針を明確にする必要あり
- ・ 緩和医療学会の緩和医療専門医制度が本年10月に発足し2010年に専門医が認定されるため、再来年度以降は項目に追加
- ・ 外来での緩和ケアの診療実績記載欄が必要
- ・ 緊急止血等、内視鏡やIVRによる oncology emergency の体制についての要件が必要
- ・ 外科手術の要件が少ないため要検討。手術件数はひとつの指標ではあるが、早期の癌に対する単独療法としての手術と、集学的治療の一部としての術前化学療法後の（予定）手術や化学療法・放射線療法後の救済手術、合併症を有する場合の手術とでは患者のリスクも必要な技術・体制も異なる。手術のリスクを層別した施設評価が必要

【相談支援】

- ・ がん専門病院ではない拠点病院では相談支援センターががん患者の相談支援に特化していない現状あり。今後「がん相談支援」としての機能分化が必要
- ・ がん経験者・患者会によるピアサポートが相談支援センターで導入されてきているが、医療機関と患者の役割分担等に関してのコンセンサスが不十分であり現場での混乱が伺われる。医療者患者協働のあり方について指針やルール作りが必要

2. 前年までの研究成果

昨年度は、米国においてがん診療病院の認定を行っている米国外科学会（American College of Surgeons : ACoS）の「Commission on Cancer (CoC)」認定・評価プログラム「Cancer Program Standards」の内容を吟味し、これを参考にして現行の拠点病

院指定要件および推薦書・現況報告書に対する改善案を作成し、国立がんセンターがん対策情報センターを通じて厚生労働省がん対策推進室に提案した。以下の項目などについて、今年度の拠点病院の推薦書・現況報告書の様式に反映された。

- ・ 項目が区別されていなかった「放射線診断」と「放射線治療」が分離された
- ・ 「診療機能」に「病理」と「画像診断」が独立かつ詳細に項目化された。
- ・ 放射線治療に関する項目が日本放射線腫瘍学会の定期構造調査と同一になった
- ・ 専門的な医師・薬剤師・看護師の人数、カンサーボードの詳細、セカンドオピニオン対応、治療レジメンの標準化とレジメン登録、職員に対する専門的教育、地域医療機関との連携体制、等が盛り込まれた。
- ・ 臨床試験について、CRC、データマネージャー、生物統計家の人数が含まれた。
- ・ 緩和ケアの提供体制の項目が詳細化された。
- ・ 相談支援センターの項目が詳細化され、相談員の研修に関する要件が盛り込まれた。

3. 研究成果の意義及び今後の発展性

がん患者がその居住地によらず、等しく適切ながん医療を受けるためには、診療の質の施設間差を是正し、標準化する必要がある。本研究における「がん医療の均てん化」とは、がん診療の標準化と患者・患者家族への適切な情報提供等を図ることにより、日本全国すべての地域におけるがん診療を現状よりも高いレベルで平均化することをさす。本研究の目的は、とくに施設間差が目立つ診療分野を中心に、拠点病院の診療機能を支援・強化し、がん医療の均てん化を推進するための医療体制を整備するための方法論を検討し確立することである。より具体的な目標としては、現行の、都道府県知事による推薦書の添付書類として厚生労働大臣に提出されている拠点病院の指定要件を詳細かつ網羅的に検討し、より適切な指定要件へと改善するための提言を行うこととする。提言によって実現した「現況調査」結果を公表することによって、公に施設間の比較が可能となり、均てん化の推進に資することが期待できる。

4. 倫理面への配慮

本研究は特定の患者・被験者を対象とするものではなく個人情報も用いないため、疫学指針や臨床指針、ヘルシンキ宣言で示されている特段の倫理上の問題は生じない。

5. 発表論文

1. 加藤抱一. 特集 がん対策基本法の実施から一年を経て がん医療の均てん化の推進 腫瘍内科 2 : 14-17, 2008.
2. 加藤抱一. がんの統計'08 CANCER STATISTIC IN JAPAN-2008 序(編) がんの統計編集委員会. (財) がん研究振興財団. 2008.
3. 加藤抱一. 視点 国立初の施設・がん対策情報センター設立 がん医療水準の均てん化めざす「一般」「医療関係者」「連携拠点病院」向けの情報発信. CLINIC magazine 34 : 7, 2007.
4. 石倉聡. がん対策情報センターに求められる役割ー放射線治療品質管理の観点から. Isotope News 638:6-12, 2007

6. 研究組織

| ①研究者名 | ②分担する研究項目 | ③最終卒業学校・卒業年次・学位及び専攻科目 | ④所属機関及び現在の専門(研究実施場所) | ⑤所属機関における職名 |
|-------|---|--------------------------------------|--|-------------------|
| 加藤 抱一 | がん医療の均てん化に資するがん診療連携拠点病院の機能強化 | 東京大学医学部・昭和46年卒業・医博・腫瘍外科学 | 国立がんセンターがん対策情報センター・腫瘍外科学(同上) | センター長 |
| 女屋 博昭 | 画像診断分野における拠点病院機能強化 | 筑波大学大学院・平成9年修了・博士・形態学系 | 同多施設臨床試験・診療支援部画像診断コンサルテーション推進室・形態学(同上) | 画像診断コンサルテーション推進室長 |
| 高橋 正秀 | Interventional Radiology 分野における拠点病院機能強化 | 筑波大学医学部/平成4年卒業/医博/画像診断,IVR | 国立がんセンター中央病院放射線診断部ラジオアイソトープ診断室・IVR(同上) | ラジオアイソトープ診断室医師 |
| 小野 裕之 | 内視鏡診断・治療分野における拠点病院機能強化 | 札幌医科大学・昭和62年卒業・医学士・消化器内視鏡学、内視鏡治療学 | 静岡県立静岡がんセンター内視鏡科・消化管早期癌の診断と治療(同上) | 内視鏡科部長 |
| 松野 吉宏 | 病理診断分野における拠点病院機能強化 | 北海道大学大学院・昭和62年修了・医博・医学研究科 | 北海道大学病院 病理部(同上) | 病院病理部長 |
| 石倉 聡 | 放射線治療分野における拠点病院機能強化 | 京都大学医学部・平成元年卒業・医学士・放射線腫瘍学 | 国立がんセンターがん対策情報センター多施設臨床試験・診療支援部・放射線腫瘍学(同上) | がん治療品質管理推進室長 |
| 荻野 尚 | 放射線治療分野における拠点病院機能強化 | 千葉大学医学部・昭和57年卒業・医博・放射線腫瘍学 | 国立がんセンター東病院臨床開発センター粒子線医学開発部・放射線腫瘍学(同上) | 粒子線医学開発部長 |
| 加藤 健 | 化学療法分野における拠点病院機能強化 | 産業医科大学医学部・平成7年卒業・医博・腫瘍内科 | 国立がんセンター中央病院消化器内科・内科学(同上) | 胃科医師 |
| 山本 信之 | 化学療法分野における拠点病院機能強化 | 和歌山県立医科大学・平成元年卒業・医博・臨床腫瘍学 | 静岡県立静岡がんセンター呼吸器内科・固形癌特に胸部悪性腫瘍内科的治療(同上) | 呼吸器内科部長 |
| 清水千佳子 | 化学療法分野における拠点病院機能強化 | 東京医科歯科大学・平成8年卒業・医学士・乳癌薬物療法 | 国立がんセンター中央病院乳腺・腫瘍内科・乳癌薬物療法(同上) | 乳腺科医師 |
| 福田 治彦 | 多施設共同臨床試験参加を通しての拠点病院機能強化の方法論の研究 | 神戸大学・昭和62年卒業・医学士・内科・臨床試験方法論 | 同がん対策情報センター多施設臨床試験・診療支援部・内科・臨床試験方法論(同上) | 多施設臨床試験・診療支援部長 |
| 門田 和気 | 緩和ケア分野における拠点病院機能強化 | 金沢医科大学・昭和57年卒業・医博・麻酔学 | 東京北社会保険病院緩和ケア科・麻酔学(同上) | 緩和ケア科科長 |
| 佐伯 俊成 | 緩和ケア分野における拠点病院機能強化 | 広島大学医学部・昭和60年卒業・医博・精神腫瘍学 | 広島大学病院・医系総合診療科・総合診療医学(同上) | 准教授 |
| 大松 重宏 | 拠点病院における相談支援機能の強化 | 関西学院大学社会学部・昭和54年卒業・学士・社会福祉学 | 国立がんセンターがん対策情報センターがん対策企画課(運営局医事第一課)・社会福祉(同上) | 研修専門官 |
| 三原 華子 | がん医療の均てん化に資する診療連携拠点病院の機能強化 | ハーバード大学公衆衛生大学院・平成16年修了・公衆衛生修士・家族地域保健 | 同がん対策情報センターがん情報・統計部がん医療情報コンテンツ室・ヘルスサービスリサーチ | 室員 |

| | | | | |
|-------|--------------------|----------------------------|----------------------------|-------|
| 鈴木 健司 | 外科治療分野における拠点病院機能強化 | 防衛医科大学校医学科・平成2年卒業・医博・呼吸器外科 | 順天堂大学医学部呼吸器外科・呼吸器外科学(同上) | 教授 |
| 山本聖一郎 | 外科治療分野における拠点病院機能強化 | 慶應義塾大学医学部・平成3年卒業・医学士・腫瘍外科学 | 国立がんセンター中央病院 第一領域外来部・腫瘍外科学 | 大腸科医師 |